

### 第3回国連防災世界会議報告

#### 『緊急津波避難情報システム』の成果が発表されました

3月13日～18日仙台市で第3回国連防災世界会議開催され、外国からの参加を含め延べ約16万人が来場しました。

この中でREICが取り組んでいる『緊急津波避難情報システム』（一般社団法人東北地域づくり協会の支援研究「緊急津波避難情報システムの実証的研究」《統括：東北大学災害科学国際研究所所長 今村文彦教授》で開発）の成果をパブリックフォーラム「重層的な津波対策の展開シンポジウム」と「被災地とともに考える防災展」で紹介しました。

パブリックフォーラム「重層的な津波対策の展開シンポジウム」（3月16日午前、仙台市情報・産業プラザ6F セミナールーム、参加者数約100名）では、初めに【主催者挨拶】として今村教授が「津波被害軽減のための備えの重要性について」の中で避難における課題やリスク管理の必要性をビデオメッセージで紹介（写真-1）、【教訓と備え】では①「津波避難訓練モデルの実践と検証」（カケアガレ！日本）、②「緊急津波避難情報システム」（東京大学地震研究所堀宗朗教授）（写真-2）、③「仙台市における津波防災の取り組み」の発表があり、堀教授は、「緊急津波避難情報システム」の開発の経緯、社会実験の成果、さらに双方向機能を使って避難完了後に家族に安否情報を知らせる機能について紹介しました。【総括】として宮城学園女子大学平川新学長より「教訓をどう生かし、伝えてゆくか」の講演がありました。なお、パブリックフォーラムの成果は日刊建設工業新聞、建設新聞、建設産業新聞で掲載されました。



写真-1 今村教授挨拶（ビデオレター）



写真-2 堀教授 講演の様子

「被災地とともに考える防災展」（3月14日～16日、ぶらんど～む一番町アーケード、東北大学災害科学国際研究所・一般社団法人東北地域づくり協会・河北新報社主催）では、津波被災前後の写真や津波システム紹介パネル（写真-3）が展示されました。

このアーケードで15日15時から当協議会理事長の大保より「緊急津波避難情報システムの紹介」後、聴講者に参加してもらい津波避難訓練を実施しました。（写真-4）



写真-3 津波システム紹介パネル



写真-4 理事長大保 講演の様子